

## 様式 11

**「地域に溶け込み、地域とともに歩み続ける高等学校としてふさわしい施設計画の考え方」**

地域に溶け込むには見た目の調和だけでなく、地域の人、モノ、コトが時間をかけて相互の関係を深めていくことです。世羅地域が積極的に整備している学園通りを成長させ、充実させることが重要であると考え、学園通りと繋がりを深める施設計画を目指します。

「学園通り」とは

高校に面する国道は、「学園通り」と地域に慕われ、世羅出身の彫刻家、杭谷一東の作品が並ぶ「町屋美術館」でもあります。「堀割修復事業」、「歩道整備」、「公園設置」など、地元の有志で愛着を持って高校周りを整備しています。

**学園通りから「文武不岐」を表す「文」と「武」の軸**

- 人を呼び込む「文」の軸
  - 未来心と共生をつなぐ軸。世羅高校は地域に開かれた学校づくりを進めています。正門から地域開放エリアに迎え入れる動線上に、未来心をはじめ、石や植栽の自然素材で、人を呼び込み、落ち着いた空間を演出します。
- 活気を届ける「武」の軸
  - 学園通りから新山まで伸びる軸。グラウンドや格技場で活動する生徒が見え、その活気や賑わいが届くように、スポーツゾーンまで視覚確保します。また、正門から昇降場までコンパクトな動線を計画します。

**学園通りを繋ぎ、一体感を高める地域開放エリア**

- 外部開放空間
  - 学園通りからアクセスできる太鼓橋を提案します。
  - 水路に階段状の親水空間を提案します。
  - 健康推進のための足つぼ通路を提案します。
  - 記念碑を将来増設できる広いスペースを確保します。
- 内部開放空間
  - 上足でもアクセスできるウッドデッキを計画します。
  - 多目的ホールとピロティ、緑化駐車場を一体利用できるようにフルオープンできる建具を計画し、面積以上の広がりを確保します。

**学園通りに活気をあたえるバルコニー、2階テラス**

- 校内の生徒と教師のやりとり、授業風景、休み時間の語らいなど、生徒の明るくひたむきな姿を緩やかに見せることで、学園通りに賑わいを与え、生徒と校舎一体で地域を繋なぐ計画とします。
- 横断幕を手すりに設置して、通りに活気を与えます。

**学園通りに調和するファサード**

- 瓦の勾配屋根、軒先ライン・建物高さを学園通りのまち並みの歩調に合わせ、一体感のある繋がりを持たせます。
- 柱や庇、ルーバー状の手すりなど、きめ細かなディテールで親近感を持たせ、建物を雁行させて前庭、学園通りへの圧迫感を軽減します。

**配置計画**

- 既存棟への配慮事項
  - 前庭の校舎からの圧迫感を軽減し、敷地に人が入りやすくなるため、建物を51号棟への日影の影響がない範囲で北側にセットバックして配置します。
  - 歩車分離のため、西門2カ所を車、バイクの専用出入口とします。
  - 専門科ゾーンと昇降場東周辺の環境、歩行者安全を確保するため、新校舎北側に一般駐車場を計画します。
  - 東西方向の建物長さをコンパクトにして、工事中の昇降口への動線を確保します。
- 既存棟への配慮事項
  - 新校舎の外観に格技棟のファサードの一部を取り入れ、既存棟との調和を図り、歴史・伝統を未来へ継承します。
  - 駐車場を緑化し、51号棟への太陽の照り返しを軽減します。
  - 51号棟から多目的ホールを介した学園通りへの見通しと開放性を確保します。
  - 新校舎の高さを抑え、既存棟の開放性を確保します。
- 既存棟の開放性イメージ

**「生徒が交流を通じて、お互いを高めあえる施設づくりの考え方」**

学校の経営理念である、「部活動に打込み、希望する進路が実現できる高等學校」の実現を目指す施設は、多様なコミュニケーションに満ちた場となるように、部活動や、学校活動で得られた成果や情報を、生徒たちが自ら積極的に発信し、発表する場、またそれを見る、聞く場であるべきと考えます。交流を通じて「見る、見られる」の関係をつくり、お互いを高め合う施設づくりを目指します。

**生徒同士のコミュニティを誘発する4つの場**

- 掲示コーナー
  - 学校からの連絡事項、業務報告を中心に掲示する場。全学年の生徒の目に最も触れやすくするため、正門から昇降場の動線上、階段下スペースに設けます。ピロティに隣接させ、登下校時の語らいの場となるたまり空間をつらえます。
- 展示コーナー
  - 部活動や、各専門科の活動など、生徒からの連絡・報告を中心とした展示する場として、施設内の移動の起点となる階段室や廊下に設けます。学年を問わず語らう場をしつらえ、世羅高校が所持するたくさんの輝かしい記念品を収容できるスペースを確保します。
- 情報コーナー
  - 進路指導室、進路相談室、職員室を隣接させて、教師の素早い対応を可能とします。生徒が情報収集や調べ学習を行い、意欲を高め、生徒同士でお互いの進路に興味を持ってもらいます。
- バルコニー
  - 町並み、空、山並み、通り、心地よい風といったものが生徒の世羅高校の原風景になるようなリフレッシュした語らいの場をつらえます。

**「生徒と地域」のコミュニティを誘発する多目的ホール（会議室）**

- 学園通りや51号棟から、中の様子が見える表現や発表の場として、「見る」「見られる」の環境をつくります。
- イベント時には緑化駐車場も一体利用できる計画とします。
- スポーツ・文化・芸術活動を通じた地域交流が可能な計画とし、独立した管理を可能とします。
- 可動間仕切り壁で小部屋を確保できる計画とします。

**「生徒と教職員」のコミュニティを誘発する2つの場**

- 生徒から教師に、教師から生徒に歩み寄りやすい、心のバリアフリーとなる場をつらえます。
- 相談コーナー
  - 生徒の教室と教師の職員室の中間領域を設け、資料を広げることでできるカウンター、机など配置し、お互いのコミュニケーションを活性化させます。
- 2階テラス
  - 外の空気に触れながら語らう場とし、リラックスして本音の語らいを促す環境をつくります。

**■配置計画**

- 既存棟への配慮事項
  - 新校舎の外観に格技棟のファサードの一部を取り入れ、既存棟との調和を図り、歴史・伝統を未来へ継承します。
  - 駐車場を緑化し、51号棟への太陽の照り返しを軽減します。
  - 51号棟から多目的ホールを介した学園通りへの見通しと開放性を確保します。
  - 新校舎の高さを抑え、既存棟の開放性を確保します。
- 既存棟への配慮事項
  - 既存棟の外観に格技棟のファサードの一部を取り入れ、既存棟との調和を図り、歴史・伝統を未来へ継承します。
  - 駐車場を緑化し、51号棟への太陽の照り返しを軽減します。
  - 51号棟から多目的ホールを介した学園通りへの見通しと開放性を確保します。
  - 新校舎の高さを抑え、既存棟の開放性を確保します。
- 既存棟の開放性イメージ

**■世羅町の自然環境を生かした省エネ**

- 夏期の冷房負荷の軽減
  - 軒先ラインを設け、外壁面の塗料や、屋根面に遮熱性能のある材料を選定します。
  - 冷涼な気候を生かし、心地よい風を取り入れるため、効率の良い自然換気を行う、ハイサイドライトを計画します。
- 冬期の暖房負荷の軽減
  - 厳しい寒さを和らげ、暖房負荷を軽減するため高性能ガラスを計画します。
  - 外部への熱損失を抑えるため、室内壁面に断熱塗料、木質化を計画し、体感温度を高めます。

**■セキュリティへの配慮事項**

- 地域開放できる諸室をまとめて配置し、明確なセキュリティラインを構築します。
- 事務室から正門、前庭、ピロティ、多目的ホールまで管理の目が行き届くように計画します。
- 職員室から駐車場を見渡せる計画とします。

**■ユニークデザインの配慮事項**

- 上足でも外部へ出られる段差のないテラスやスロープを設け、安全な歩行空間を計画します。
- 各教室は県産材による内部の木質化を図り、潤いのある、快適な室内環境とします。
- ハイサイドライトからの北側採光で、教室内の明るさを均一にした室内環境とします。

**■柔軟な施設計画への配慮事項**

- 学習ニーズの多様化に対応するため、スケルトンインフィルの考えを取り入れ、間仕切り壁を乾式工法で計画します。
- 災害時に避難場所として機能するため、二次部材の耐震性を確保します。
- 経済的なスパン割を採用して、コスト縮減を図ります。

**■その他の配慮事項**

- 多様な学習形態へ対応するため、多目的ホール（会議室）、進路指導室など様々な場所で気軽にパソコンを利用できるICT環境を構築し、校内LANや、LANの無線化を計画します。
- 冬季に軒先のソララ防止のため、融雪ヒーターを設置し、歩行者の安全を確保します。
- 節水型の衛生器具を計画します。
- 照明器具にLEDを中心に選定し、長寿命で高効率化を図ります。
- 初期照度補正器具や、屋外利用照度制御、人感センサーの導入により日中の電力を削減します。